

# 希望

令和7年1月7日(火)第11号  
多治見市立笠原中学校 学校だより  
多治見市笠原町 2455-12 TEL43-4165

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本校の教育活動に温かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。年も改まり、新たな気持ちで、生徒たちと共に、職員一丸となって「子どもたちが主役」の学校づくりに邁進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、『笠原の子は、笠原のみんなで育てる』そんな思いでこれまで育てていただいた笠中は、1年後の3月に、現在の校舎になって49年、旧校舎を含めると79年の歴史に幕を閉じることとなります。

残された今年一年を、これまでの先輩方、地域の方々が大切にしてこられた笠中の歴史・伝統を振り返り、新たな学校へと引き継いでいく年にしたいと考えています。「笠中」としての最後の一年。保護者、地域の皆様におかれましては、これまで以上のご支援、ご協力をお願いいたします。

## 大校章に込められた想い ~ ♪ 希望が丘の 明け暮れに ♪ ~

校長 加藤 智夫

子どもたちへの新年のあいさつの中で、これまで笠中の先輩方が大切にしてこられた『大校章』について話をしました。その内容を、紹介します。

※ 令和4年6月30日発行の学校報第4号の中で書かせていただいた内容とほぼ同じです。

校門を入り、校舎を見上げると、いつもそこには『大校章』がみなさんを温かく出迎えてくれます。

この大校章は、笠原中学校の校舎完成の4年後の昭和55年、当時の保護者の有志6人がボランティアで製作した焼き物の校章です。制作期間約3か月、約50個の部品に分けて制作した後、組立て、校舎壁面に取り付けられました。



この大校章には、

- ・いつもこの校章を仰ぎ、笠中の伝統に誇りをもち
- ・いつもこの校章の下で、心を一つにして団結し
- ・いつもこの校章を前面にたてて前進する

という願いが込められています。

ところでこの校章は、平和の象徴である「ハト」、笠原を示す「K」、ペン先をデザインした「中」の字からできています。このデザインは、生徒が考えた校章のアイデアを当時の美術の担当であった林雲鳳(はやしうんぼう 笠原町出身の日本画家)先生が手直しをされたものです。



校章創設実行委員のみなさんと完成した大校章

林雲鳳先生は、予備校塾講師でありタレントでもある、「いつやるの？今でしょ！」の林修(はやし おさむ)先生のおじいさんにあたる方です。

校章に込められた3つの願い、「笠中の伝統に誇りをもち」「心を一つにして団結し」「前進する」は、今年から笠中が目標としている『自立 共生 創造』と変わることのない願いでもあります。

大校章に込められた願いをいつも心に、子どもたちと共に笠中の締めくくりにあふさわしい年にしてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

※ 当時の制作の記録が、校長室にあります。よかったら見に来てください。



当時の新聞記事 S55年7月11日